

【当法人の活動目的】

既存の学校では学びづらかったり、過ごしづらかったりする発達障害の子供たちの「**みらいのかのう性をたかめる**」ことを目的に次のような活動をしています。 具体的な活動は、ちらしの裏面をご覧ください。

【「みかもった講座」が必要な社会的背景】

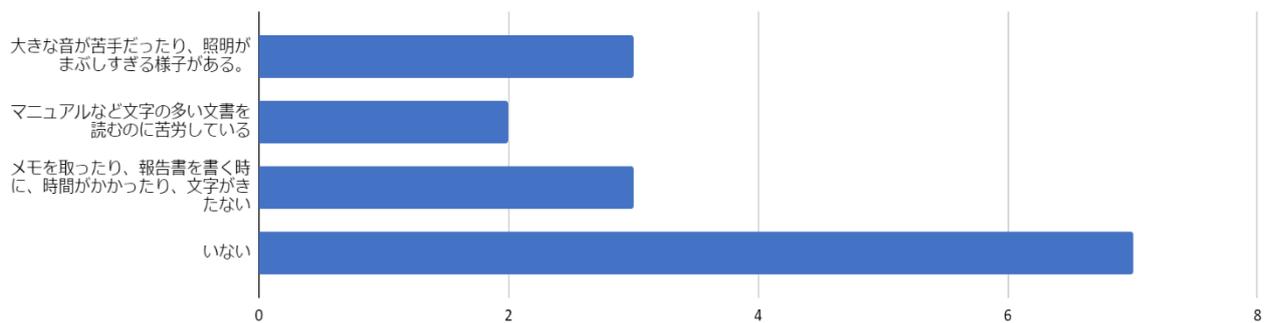
不登校の子供たちは年々多くなっていますが、背景には既存の学校では学びづらかったり、過ごしづらかったりする発達障害の特性があることも多いです。子供たちが不登校になると、保護者もどのように対応したらよいか苦慮されます。祖父母との意見が合わず、家庭内で葛藤が生まれたりもします。

そこで、令和4年に実施した「みかもった講座」では、子供たちの祖父母にあたる年代の方に、発達障害について知っていただくことを目標にした「みかもった講座」を3回実施しました。

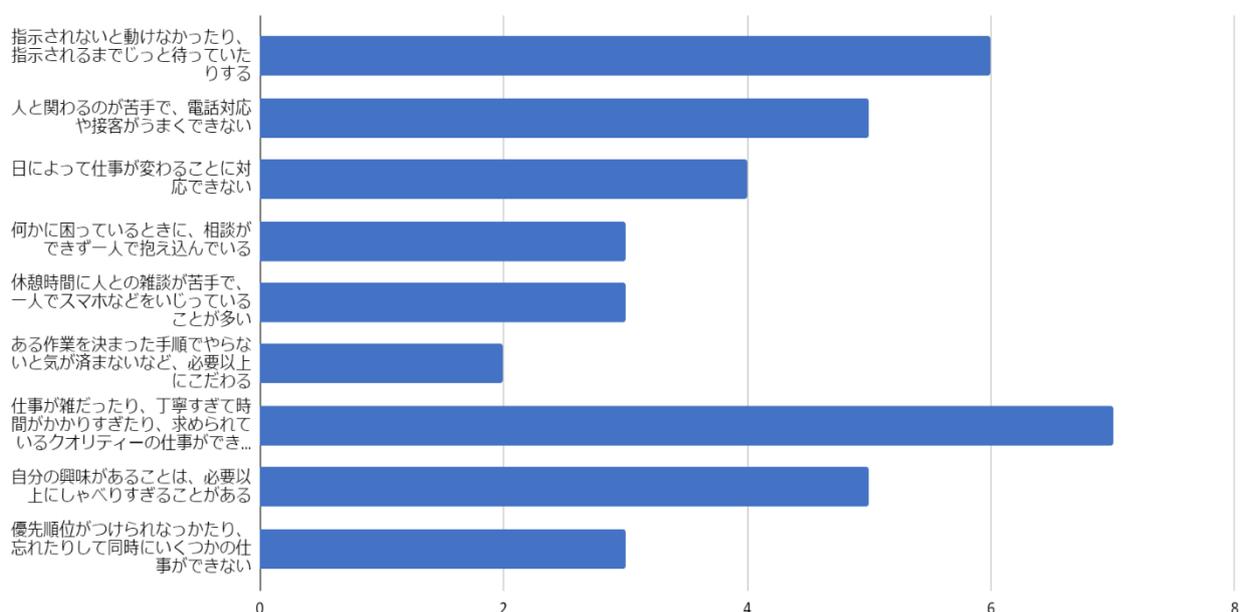
【2023「みかもった講座」を実施する社会的背景】

令和3年7月、ご協力いただいた20社で、発達障害の特性が認められる従業員がおられるかどうかアンケートをさせていただきました。その結果が以下です。

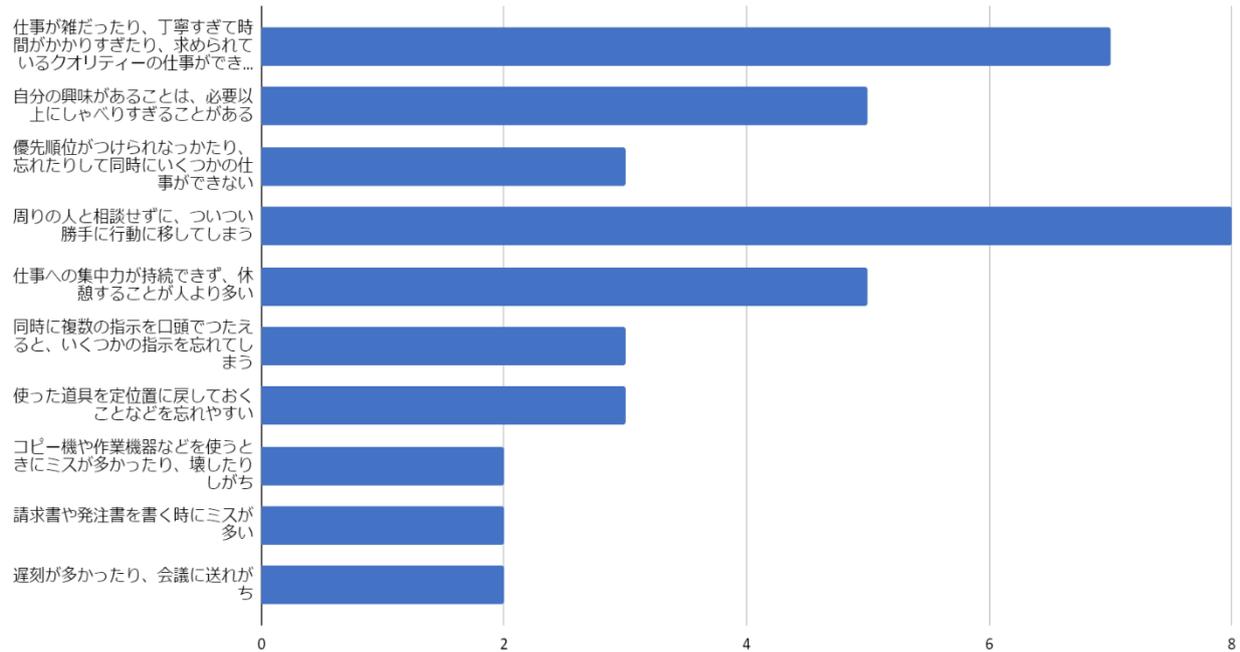
HSP・LDの特性を示す従業員がいた事業数 / 特性のある従業員がいなかったとする事業所数



ASD傾向の特性を示す従業員がいた事業所数



ADHD傾向の特性を示す従業員がいた事業所数



令和4年、「みかもった講座」を実施する中で、大人の発達障害の方からの相談を受けることもありました。職場で発達障害を理解してもらうことができず、結局、離職せざるをえない状況がありました。職場でのストレスを発散するため、ゲーム、アルコール、ギャンブルなどの依存症になりがちな人もいます。

令和5年2月、「みかもった講座」の事後評価のために実施したアンケートによれば、職場でのアクションが少ない結果でした。

講座に参加した後、発達症の子供たち・保護者、大人の当事者のために 何かなさったことか意識が変わったことなどについて

(3) 質問項目

- 同僚のできなさに腹を立てていたが、もしかしたら発達症の特性が原因では？と思えるようになった
- 同僚のできなさは、発達症の特性が原因だと思い、自分の対応を変えるようにした
- 同僚が発達症の特性で困っているようだったので、相談できるところを紹介した
- 職場でも発達症について研修が必要だと、職場へ提案したり、企画したりした
- 発達症の特性がある人が働きやすいように、職場内で合理的配慮が工夫できるように、働きかけた
- 特にない
- その他: _____

(3) 職場で 25件の回答



これらの結果から、次のことが分かりました。

- ・多くの職場には、少人数とはいえ、発達障害の特性があり、働きづらさを感じている人がおられる。
- ・雇用側にとっても、どのような合理的配慮(工夫)をしてその人が持つておられる強みを発揮してもらい、職場の戦力となって貰えるかなどを、学ぶ機会や実際の行動がまだまだ少ない。

そこで、今年度のみかもった講座では、次の目的を掲げました。

【標題の講座を実施するにあたっての目的】

○保護者だけでなく祖父母や地域の人などが気軽に特性や対応を学べる場を作り、理解者を増やす。

○職場の人事担当等、発達障害の従業員にかかわる立場の人の発達障害に関する理解を進め、令和6年4月からの、職場での合理的配慮義務化に向けて、ヒントを得てもらう。

・発達障害には主に3つのタイプ(LD,ADHD,ASD)があり、働く場面では、それぞれどのような働きづらさがあるのかを知ってもらう。

・どのような合理的配慮(工夫)が効果的なのか考えるヒントを得てもらう。

【具体的な実施計画】

ちらし、ポスターをごらんください。

【問い合わせ先】 非営利型一般社団法人(通称 みかたーNET)

代表 佐佐木 090-7504-5686